

公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 基本方針	
香川ブロック協議会 会長 西應 俊介	
ブロック協議会 理想の未来	高い理想が導く 希望に満ちた香川の創造へ 地域の課題を考え、そこに向き合い、行動を起こせる人間が多い地域に人は必ず集まります。そのためには高い理想を掲げ何ごとにも前向きに取り組んでいるかっこいい人財が増えてくることが重要です。その積み重ねにより、日本一前向きなブロックといわれる未来
ブロック協議会の 役割	LOM にとって有益な情報を的確に提供するためにも、それぞれの LOM に何が足りなくて、何に困っているかを把握する必要があります。ブロック会長が各 LOM 理事長とミーティングを行うなどコミュニケーションを取り、情報を細かく吸い上げる体制を作ります。また、ブロックと地区の役割が被らないように、ブロックがやるべきことと地区がやるべきことを明確にし、LOM に明確に示していきます。
ブロック連携事業 (政策手法)	1 各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究 香川ブロックでは県内全ての LOM にヒアリングを行い、ブロック内の LOM の知識を融合させることでさらにレベルの高い事業を構築し発信します。LOM、ブロックだけでなく他のエリアからの視点も入り事業規模・発信力を共に向上させ全国に発信できるものとしします。発掘までを各 LOM に協力してもらい、全国へ向けての発信は地域共創会議としっかりと連携し全国へ魅力ある香川を発信します。そうすることで全国に誇れる香川という地元からの意識も高まり、郷土愛を持つ県民が増え希望に満ちた香川の未来が創造できます。
	2.地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究 香川ブロックでは県内全ての LOM にヒアリングを行い、まずは各 LOM から 1 つ以上、候補をだしてもらい、会員会議所会議の冒頭で報告してもらう時間を作ります。そして年間を通じて地域に眠る活用しきれていない資源を発掘します。香川県では学生の前向きな動きも多いので県内の行政や団体、有識者だけでなくボランティアなどを通じて関係ができてい学校も巻き込み経済活動として利益を生み出しつつ人と自然が共存できる好循環なモデルを研究します。そして香川県の中でも際立つものを選定し地域ブランド確立委員会と共に全国に向けて発信していきます。そうすることで全国から注目され人の集まるまち、持続可能な香川を創造します。
	3.誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援 県内全ての LOM に特に予定者段階や年度が始まる前の早い段階でヒアリングを行い、どのようなプログラムをどの時期にどの規模で開催するのが最適なのかを理事長と協議しながら年間を通じてブロック主導で複数回、開催します。そうすることでアカデミー会員はまずは JC について知ることができます。また、すでに理事を受けているメンバーには今後、理事長を目指すきっかけ作りとします。開催時期は前期の期間中に開催することによって 2026 年度の理事候補者を増やすことにも繋がられます。
	4 ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用 香川ブロックにおいて入会 3 年未満のアカデミーメンバーが 30%を超える状況になってきています。新入会員が多いのはいいことですがその育成が課題です。そして意識や価値観共有のために経歴を問わず、各種カリキュラムを受講することによってより参加意識が高まりどの事業にも意味合いを感じることができるメンバーが多く参画し、香川ブロック内の一体感を高めます。
	5 理念共感拡大グランドデザインの検証 県内全ての LOM に年間を通じて理念共感拡大グランドデザインの浸透度合いのヒアリングを行い、その結果を見ながら本会と連携し検証と促進を続けていきます。結果、浸透していない LOM に対してはなぜ浸透していないのか。浸透させるつもりがないのであればどのようにして理念や価値観の共有を図ってい

	くのかを説明、または提案をしてもらうようにして、今あるものだけに拘らず、よりよいものを創り上げられるように検証と並行して 2026 年度に提案できるものがないかも積極的にブロックから LOM に働きかけていきます。
ブロック協議会 独自の事業	1.徹底的な LOM 支援の実施 【背景】 香川ブロックでは会員減少が課題です。2022 年に 200 名を切ってからアカデミー会員が占める割合が増えてきていたり、経験が無いままに LOM での理事やブロックへの役員出向などのケースが多く見られます。LOM での理事会やブロックでの会員会議所会議というのはお手本でなければならぬと感じています。今一度、基本から学び先輩や他 LOM 他ブロックから力を借りてでも会員増強に注力しなければなりません。 【目的】 ブロック内での価値観の共有や意識向上、LOM の理事やブロック役員を受けるにあたりまずはみんなから憧れられるような人財に成長していくことを目指します。そしてこの狭い香川県という立地をいかしブロック内での出向の仕組みを試験的に運用し、継続事業を協力しやり遂げることで経験を積み、新たな視点も取り入れながら県内での青年会議所の存在をアピールできるようにブロック協議会が架け橋となり LOM と LOM を繋ぎます。 【手法】 香川ブロックでは要支援 LOM として小豆島 JC をあげています。会員減少に伴い例会や理事会の設営や開催が困難になってきており、また 2023 年 2024 年に役職を多く経験してきたメンバーが卒業を迎え育成し拡大をできるメンバーがいらない状況がこれから予想されます。そのため、拡大や地元での存在感を高めるためにもブロックとしてブロック事業を小豆島 JC と合同で開催し経験を重ねる機会を創出します。そして他にも継続事業を数年前から開催自体が危ぶまれているものもあります。ブロックからできる LOM への支援として大きな事業を抱えている委員会に LOM 間での出向を試験的に行います。今後 LOM で中心になって欲しい人財を経験のために出向させること、逆に経験のあるメンバーを出向させて事業を円滑に行えるようにサポートとしての支援など内容はそれぞれに相談しブロック協議会が文字通り架け橋になり LOM の困っている点を徹底的にサポートしていきます。
	2.JC カップ U-11 少年少女サッカーブロック予選大会の実施 【背景】 近年、地域コミュニティの希薄化により、地域社会において共通の価値観や目標が共有されず、地域社会に必要な人財を育成することが困難となっている問題があります。そのため、子どもたちが未来のリーダーとして成長することが一層重要になっています。そこで、スポーツの試合を通しグッドルーザー精神を学び体感することにより、困難に立ち向かい挑戦すること、向上心や健全な姿勢とリーダーシップを育成する必要があります。 【目的】 地域の未来を担う子どもたちにスポーツを通じて他者を思いやる心や協力し合うことの大切さを知ること。普段からお世話になっている監督やコーチ、保護者にむけて感謝の気持ちなどを言葉にして伝えること。そして困難に立ち向かい挑戦することの大事さを学んでいただきます。 【手法】 試合の前後で交流やプロ選手による指導などの経験を通し他者を思いやる心や監督、コーチや家族に普段は伝えられないような感謝を示す場所を提供します。その経験をすることにより人に感謝を伝えることなど豊かなこころを持つ人財を少しでも増やせるようにします。

	試合の前にも相手を知ることができるように合同練習の時間を設けます。そして会話もしたことのある相手と試合を行うことにより、交流をせずに試合を行うよりも相手に対する思いやりやリスペクトの精神が出るようになり試合結果に関わらず、精神的な成長の機会を与えることになります。 3.香川ブロック大会高松大会の実施 【背景】 香川県には地域にまだ知られていない魅力がたくさん眠っています。その魅力的な資源や生産物を発信し香川県の皆様に知っていただくだけでなく全国に発信していき、さらには他の地域の方々からの俯瞰的な視点で香川を見ることが必要です。 【目的】 まだ眠る魅力を各 LOM のエリアから出してもらいそれぞれの魅力を学ぶ機会とし、さらに発信をうまく利用し成功している事例のあるエリアの方を招き香川の魅力をより多くの地域に発信するための最適策を学ぶ機会を提供することを目的とします。 まだ知らない香川県の魅力や地域資源に対し県民やメンバーが香川を誇りに思うことで、前向きな人財が多くなり、香川の明るい未来を創造することを目的とします。 【手法】 まだ知らない香川県の魅力や地域資源に対し県民やメンバーが香川を誇りに思うことで、前向きな人財が多くなり、香川の明るい未来を創造します。 そしてまだ眠る魅力を各 LOM のエリアから出してもらいそれぞれの魅力を学ぶ機会とし、さらに発信をうまく利用し成功している事例のあるエリアの方を招き香川の魅力をより多くの地域に発信するための最適策を学ぶ機会を提供します。
ブロックによる LOM 支援の 実施内容	1. 各 LOM が抱える負担の大きい事業に対し LOM 間の出向を行う 2. 少人数 LOM に寄り添い研修や拡大の支援を行う 3. 全 LOM 理事長との 1on1 ミーティングを行い日本 JC との懸け橋となる